

ハザードマップアンケート調査結果の概要 (湯沢市、横手市)

- 【目的】** ハザードマップの認知・利用状況及び理解度についてアンケート調査を実施し、湯沢市・横手市を含めた雄物川流域における今後のハザードマップ作成・改善及び普及活動における基礎資料とする。
- 【アンケート方法】** 町内会組織による各戸配布・郵送回収方式
- 【アンケート内容】**
- ハザードマップの認知・利用状況
 - ハザードマップの理解状況
 - 災害に対する意識状況
 - ハザードマップに対する意見等

湯沢市災害ハザードマップアンケート

【アンケート期間】 平成19年1月～2月
 (HM配布後約1年経過時点)

【アンケート対象】 ハザードマップ配布世帯
 18,504世帯(全世帯)

【アンケート回答数】 923件 (回答率約5%)

【アンケート結果概要】

■ 回答者は60歳以上の年代が約6割。

※ハザードマップの認知・利用状況

- ハザードマップを知っているとした人は約8割。
 - ハザードマップが家にあるとした人は約7割。
- さらに、いつでも取り出せるとした人は約6割。

※ハザードマップの理解状況

■ ハザードマップで「避難する場所が分かった・だいたい見当がついた」との回答は8割程度。

※災害に対する意識状況

■ 居住地が「危険と認識」している人は3割程度となっているが、浸水想定区域内に居住している人での割合とした場合では約5割が危険だと認識。危険だとした理由としては「過去に経験したことがあるから」が約5割の回答。

■ 避難情報の伝達方法として、「市の広報車」の回答は約5割、「テレビ・ラジオ」の回答は約2割。

※ハザードマップに対する意見等

■ 自由意見では、「ハザードマップのサイズが大きすぎる」「地域版が欲しい」との扱いやすさの向上に係る意見が多い他、避難訓練の実施に関する要望や、ハザードマップの再配布希望に関する意見がある。

横手市洪水ハザードマップアンケート

【アンケート期間】 平成19年3月～5月
 (HM配布時点)

【アンケート対象】 ハザードマップ配布世帯
 7,771世帯(浸水区域内世帯)

【アンケート回答数】 389件 (回答率約5%)

【アンケート結果概要】

■ 回答者は60歳以上の年代が約7割。

※ハザードマップの認知・利用状況

■ ハザードマップを知らない若しくは今回の配布で初めて知ったとした人は約5割。

※ハザードマップの理解状況

■ ハザードマップで「避難する場所が分かった・だいたい見当がついた」との回答は9割。

※災害に対する意識状況

■ 居住地が「危険と認識」している人は5割程度。危険だとした理由としては「過去に経験したことがあるから」が約7割の回答。

■ 避難する場合の手段としては、「歩いて」とした人は約6割。

■ 雨量・水位情報がインターネットで入手出来るとの回答は約3割。

■ 避難情報の伝達方法として、「市の広報車」の回答は約5割、「テレビ・ラジオ」の回答は約2割。

※ハザードマップに対する意見等

■ 自由意見では、「配布されたハザードマップを参考とする、再確認する」といった意見がある一方「地域版が欲しい」や「避難場所が遠い、避難場所に疑問」等の他、「高齢者・身障者なので不安」といった意見がある。

【 改善に向けて 】

①地域版を希望！

マップが大きすぎるとの意見や地域毎のマップを希望している状況から、地域版の作成配布が望まれるが、予算的な制約を踏まえ、広報誌を活用し、各号に1～2地域毎に掲載していく方法が考えられる。

また、同じものを市役所や各支所の窓口コピーを置いておき、市民がいつでも持ち帰れるようにする。

②文字が小さい！

避難経路が分からない、記載内容が見えにくいといった意見等から、文字の拡大等について検討する。

③避難勧告が出たらどうすればいいの？

洪水ハザードマップには、避難情報の伝達の仕方や種類等について記載してあるが、よくわからないとの回答もあることから、避難情報の発表から避難完了までの流れをより具体的に、広報誌等で説明する。

また、パソコンや携帯電話から情報入手出来ない方が多く見られたこと、避難情報入手先が「市の広報車」に多く回答あったこと等から、避難情報等を、市の広報車や防災無線・有線放送等により確実に伝達する。

④避難場所はここがいいの？

避難場所について、「遠すぎる」「避難場所に疑問」等の意見があることから、さらに実際の避難行動を想定した検討を進める。その一例としては、3階建て以上のコンクリート建築物など浸水範囲の中でも一時的に避難場所となり得る場所を、町内会単位等で話し合いながら追加していくなどについて検討する。

⑤アンケート調査結果の共有

アンケートの自由意見の中には、地域ごとの防災体制等の改善につながる意見等もあることから、市職員や市民とこの情報を共有し、よりよい防災体制の構築(自主防災組織の結成等)につなげていく。

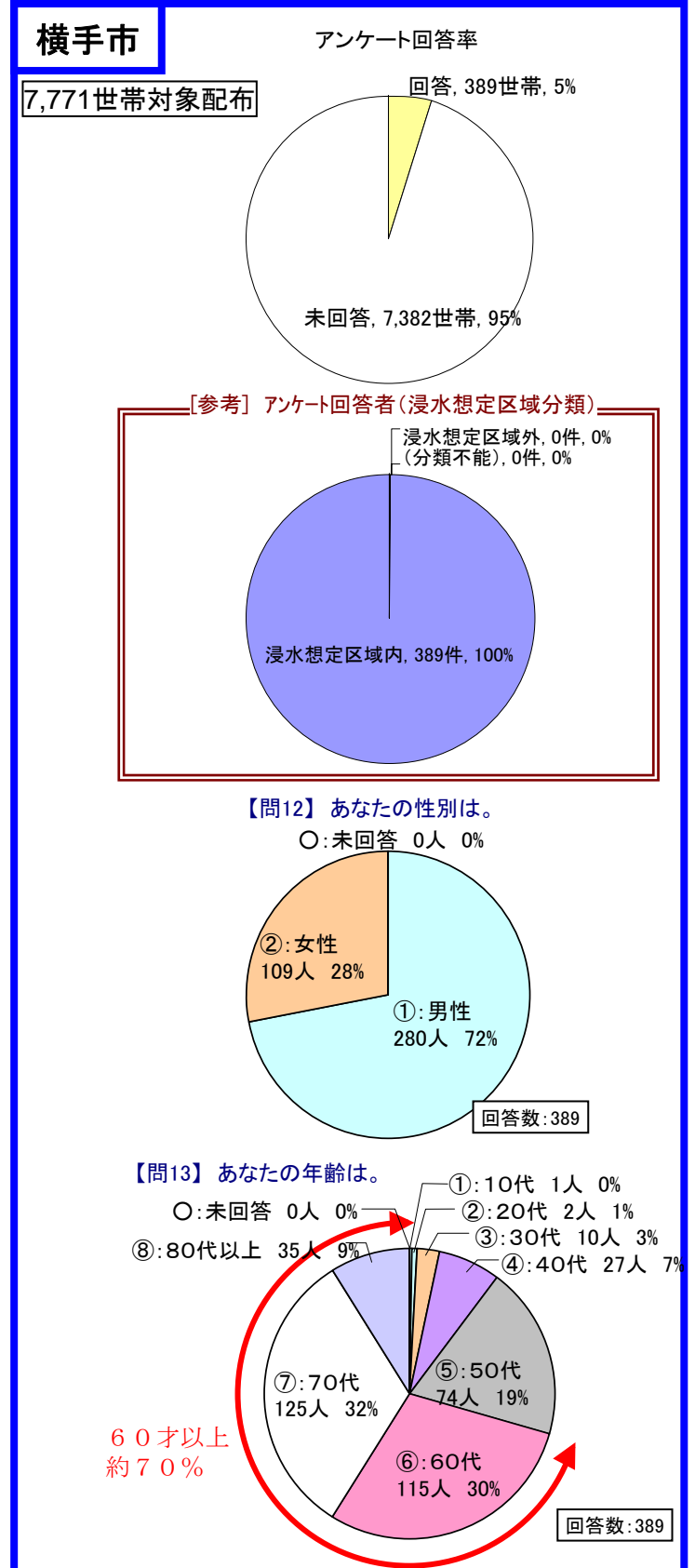
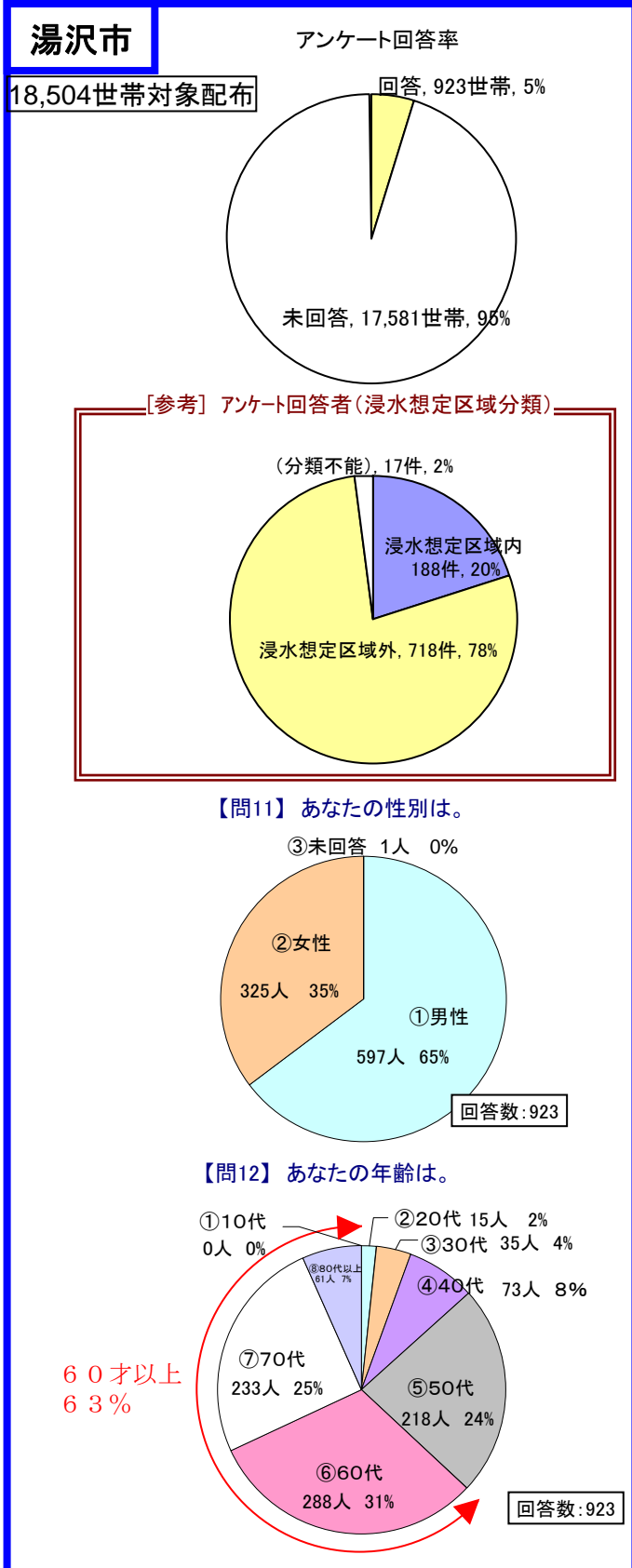
【アンケート回答状況】

アンケート回答状況は、湯沢市・横手市それぞれ、回答率5%程度である。

回答属性は、男性70%程度、女性30%程度である。

60歳以上の年代が、湯沢市が60%程度に対し、横手市は70%程度と若干高い。

また、湯沢市は市全世帯を対象(浸水想定区域及び土砂災害危険区域を含む)としており、この内浸水想定区域内世帯は約20%程度である。一方横手市は浸水想定区域内世帯をアンケート対象としている。

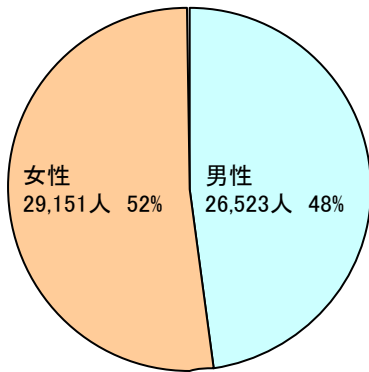


【参考：湯沢市と横手市の概要】

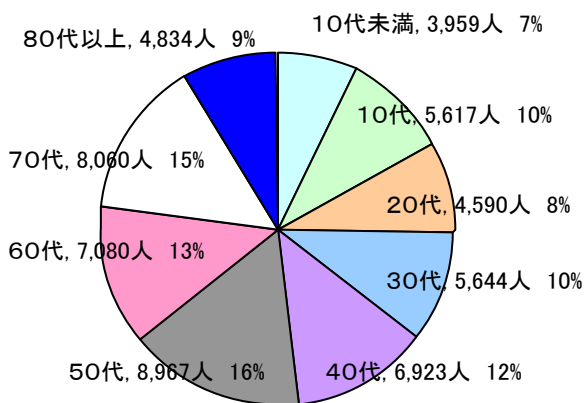
湯沢市・横手市におけるアンケート期間における人口構成は同等となっている。

湯沢市

湯沢市(全域)人口 [性別] H19.1

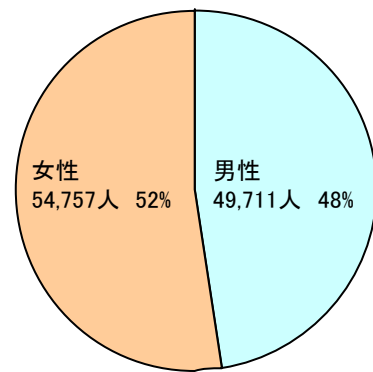


湯沢市(全域)人口 [年齢別] H19.1

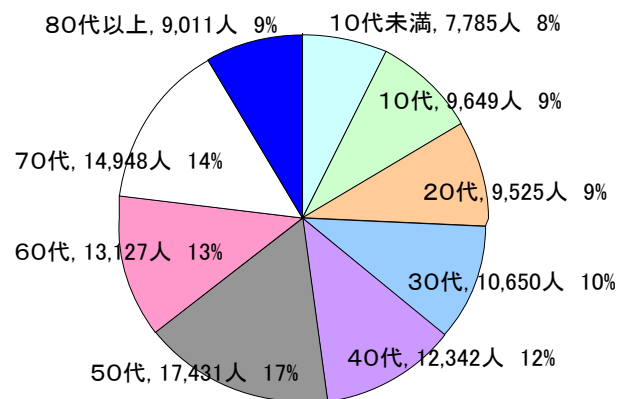


横手市

横手市(全域)人口 [性別] H19.3

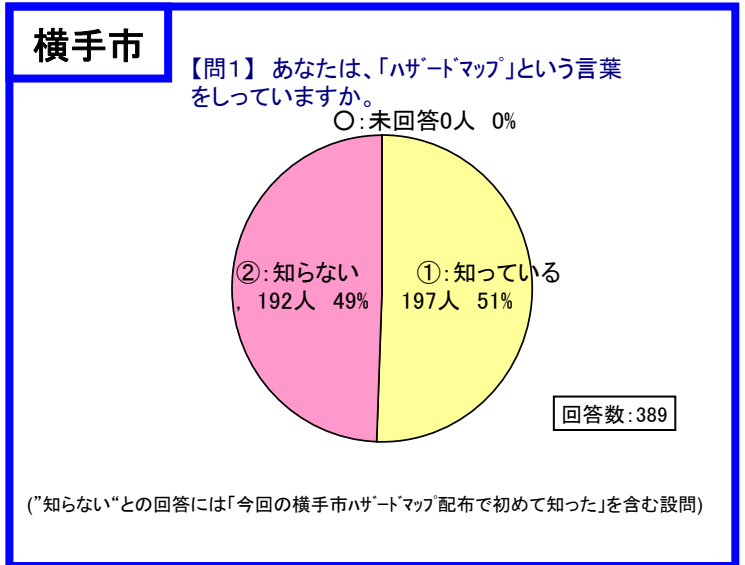
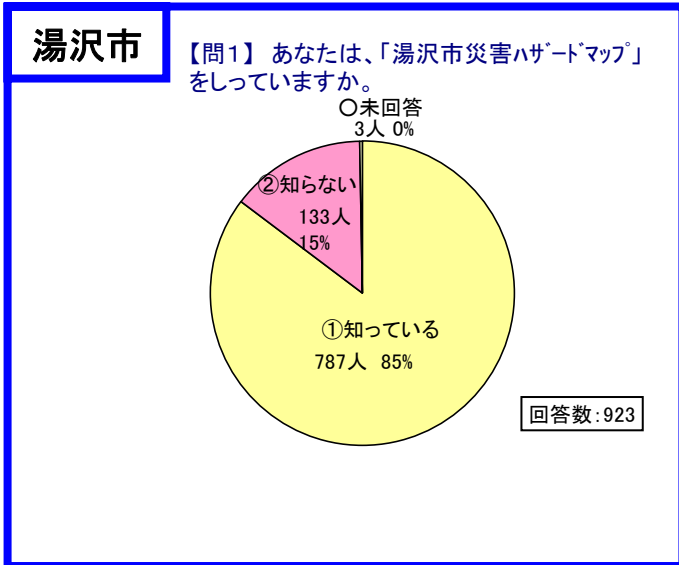


横手市(全域)人口 [年齢別] H19.3



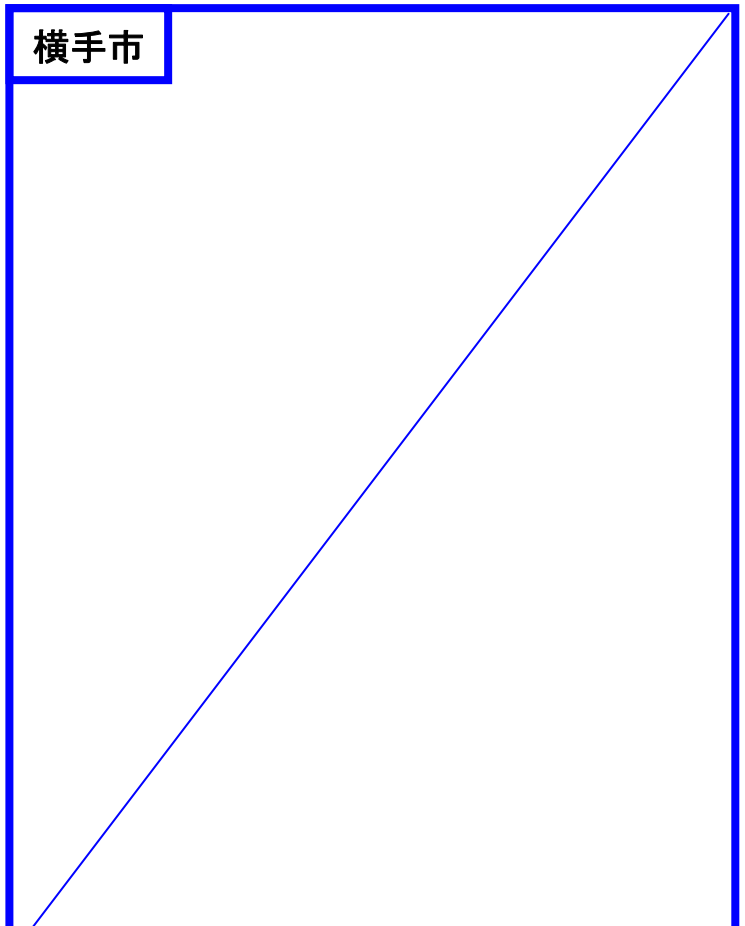
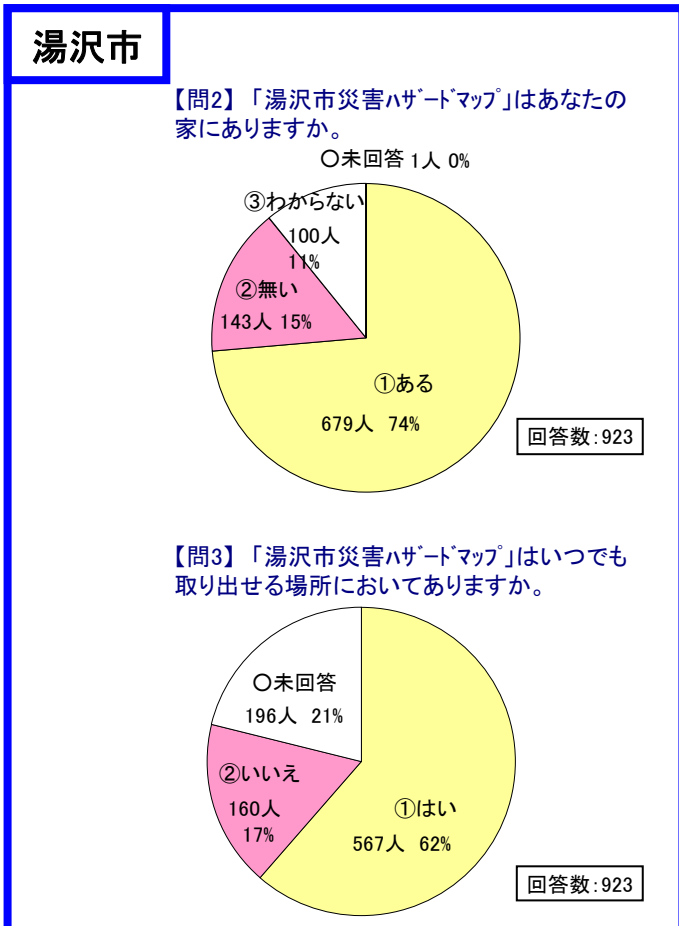
【ハザードマップの認知状況（1）】

配布後約1年経過した、湯沢市ハザードマップを知っているとした人は約85%である。
 ハザードマップ配布時での「ハザードマップ」という言葉の認知状況は横手市で約50%であり、半数の人が認知していない結果である。



【ハザードマップの認知状況（2）】

配布後約1年経過した、湯沢市ハザードマップが家にあるとした人は約74%である。
 さらに、いつでも取り出せる場所にあるとした人は上記より約10%低い約61%である。
 また、家に無いとした人の中には再配布を望む意見がある。



【住んでいる場所の安全性の認知状況（1）】

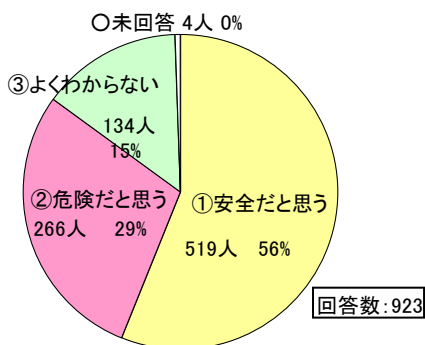
湯沢市では、安全だとした人は約56%、危険とした人は約29%に対し、横手市では、安全とした人は約42%、危険とした人は約46%と認識が異なる。

湯沢市では全域をアンケート対象としており、浸水想定区域内外別と整理した場合には、浸水想定区域内に居住する回答では、安全だとした人は約39%、危険だとした人は約48%となっている。

（湯沢市で安全だとした人約56%には、浸水想定区域外での回答が高いものと推察される）

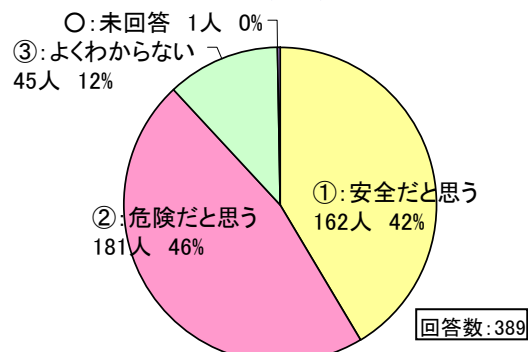
湯沢市

【問4】 あなたの住んでいる場所は、洪水又は土砂災害に対して安全だと思いますか。



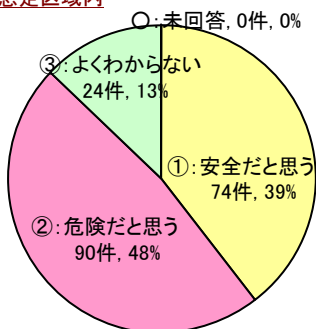
横手市

【問2】 あなたの住んでいる場所は、洪水に対して安全だと思いますか。

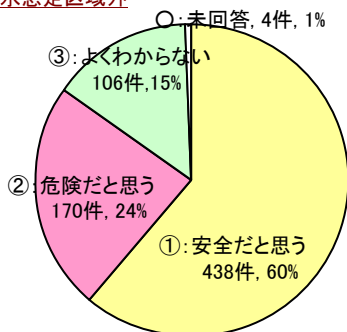


(参考) 浸水想定区域内外別
あなたの住んでいる場所は安全ですか。

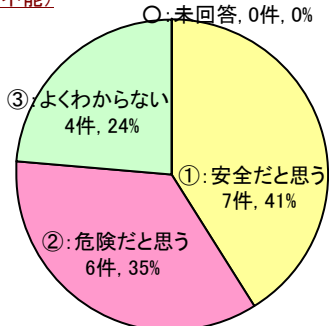
浸水想定区域内



浸水想定区域外



(分類不能)



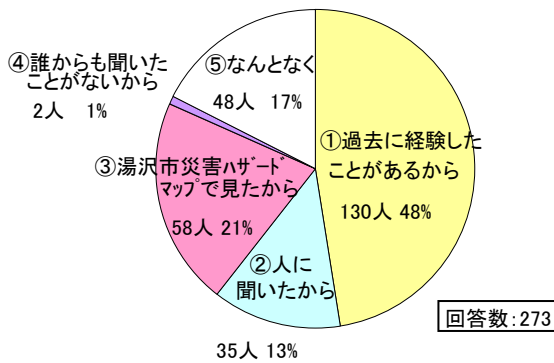
【住んでいる場所の安全性の認知状況（2）】

住んでいる場所が危険であると回答した理由として、「過去に経験したことがあるから」が最も高く、次いで「ハザードマップを見たから」とされている。

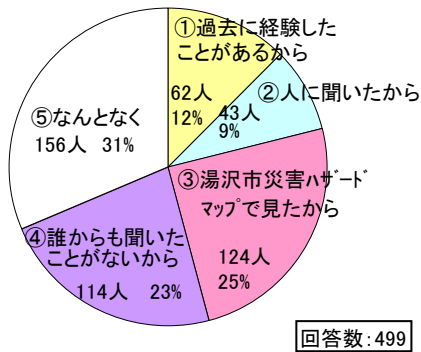
湯沢市での回答では「何となくとの回答が約17%と横手市より高い回答である。

湯沢市

【問5】洪水又は土砂災害に対して危険だと思うと回答した理由（複数回答）

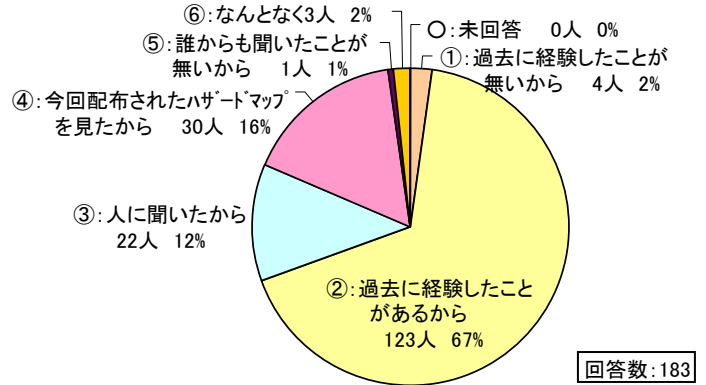


【問5】洪水又は土砂災害に対して安全だと思うと回答した理由（複数回答）

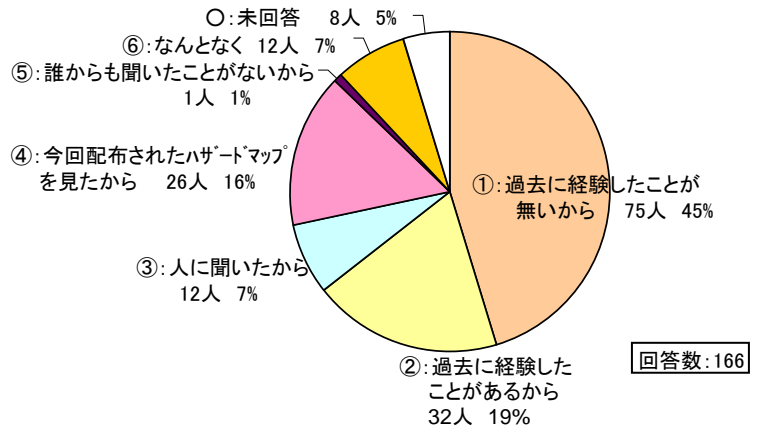


横手市

【問3】洪水に対して危険だと思うと回答した理由（複数回答）



【問3】洪水に対して安全だと思うと回答した理由（複数回答）

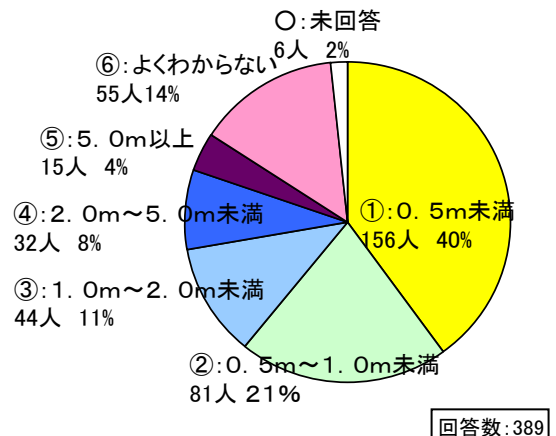


【ハザードマップの記載情報について（1）】

自宅の浸水深をハザードマップで読み取った人は約85%であるが、よく分からないとの回答が約15%である。

横手市

【問4】あなたは、「横手市ハザードマップ」を見て、あなたの家がどれくらいの浸水の危険性があるか分かりましたか。

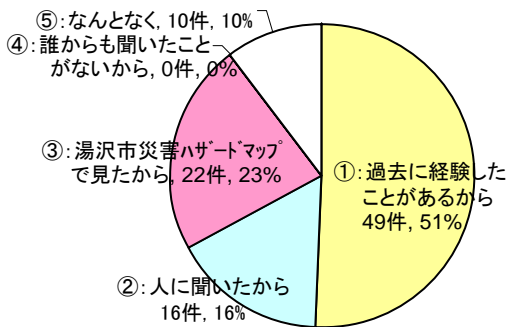


【参考 なぜ“危険”or“安全”と思いますか（浸水想定区域内外別）】

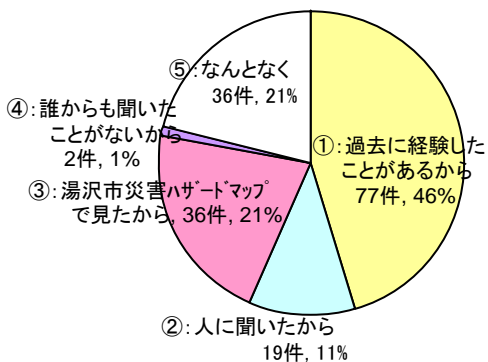
湯沢市

(参考) 浸水想定区域内外別
危険だと思う理由

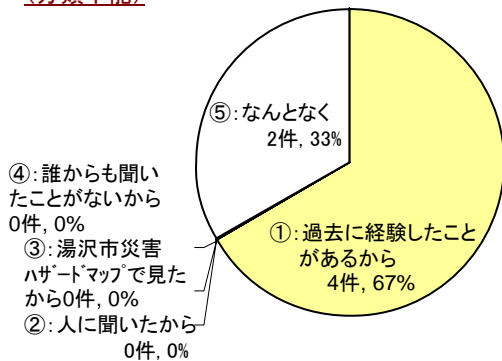
浸水想定区域内



浸水想定区域外



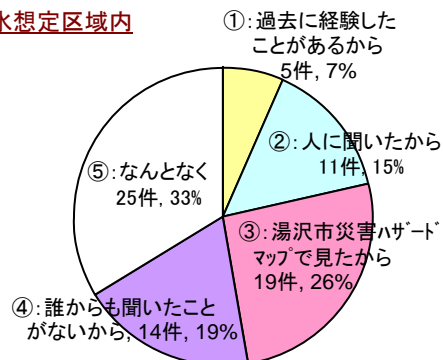
(分類不能)



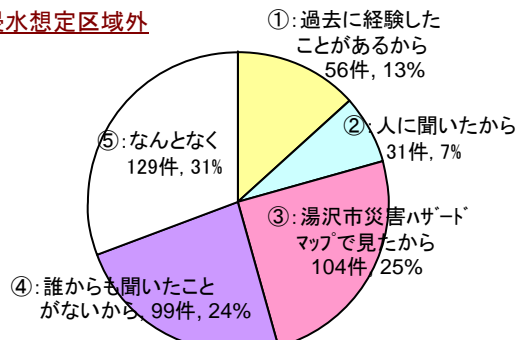
横手市

(参考) 浸水想定区域内外別
安全だと思う理由

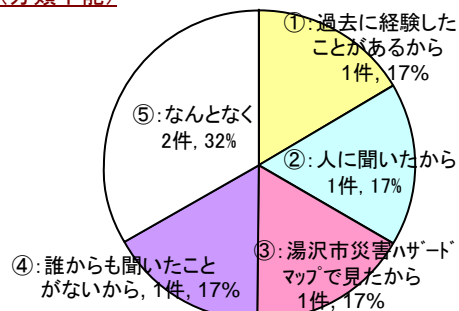
浸水想定区域内



浸水想定区域外



(分類不能)



【ハザードマップの記載情報について (2)】

ハザードマップで避難場所が分かったとした人は「だいたい見当がついた」を含めると、湯沢市で約77%、横手市で90%であり、横手市の大半の人は避難場所を確認できたことになるが「避難場所が遠い」「(避難経路を考えると)避難場所が疑問である」といった意見の記載もあった。

また、よく分からないとした人は、湯沢市で約18%、横手市で9%の回答である。

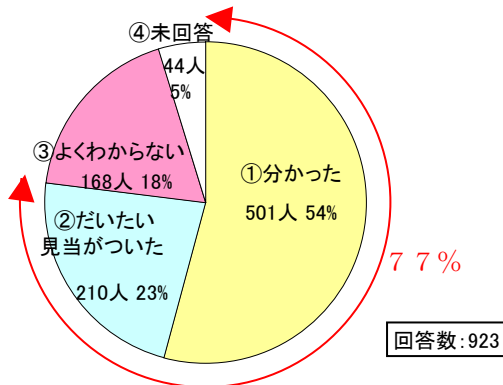
記載情報の中に役立つ情報がありましたかの設問に対しては、湯沢市で約59%があったとし、その主な情報は、「避難場所(69%)」「浸水区域(23%)」「土砂災害箇所(8%)」である。

一方横手市での回答ではほとんどの人が参考となった情報に係る記載があり、「浸水範囲・深さ(41%)」「避難場所(37%)」「関係機関の電話番号(18%)」となっている。

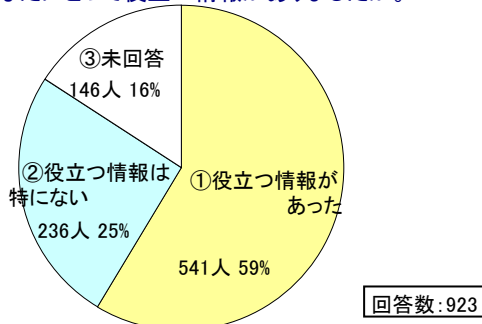
また、役立つ情報で、湯沢市の浸水想定区域内外別に整理した結果では、「避難場所(56%)」「浸水区域(41%)」「土砂災害箇所(3%)」と「浸水区域」の割合が若干高くなる結果となる。(次頁参照)

湯沢市

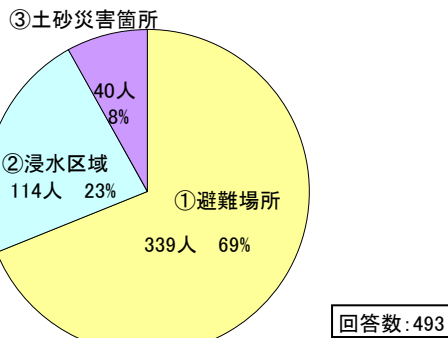
【問6】あなたは、災害時に避難する場所が、「湯沢市災害ハザードマップ」でわかりましたか。



【問7】「湯沢市災害ハザードマップ」には、あなたにとって役立つ情報がありましたか。

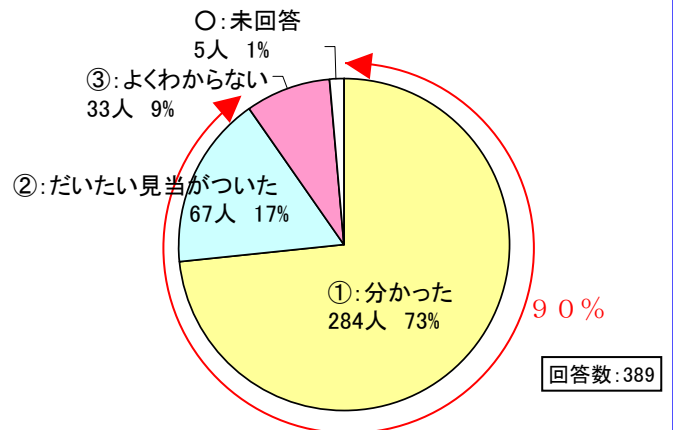


【問7'】役立つ情報は何ですか。(複数回答)

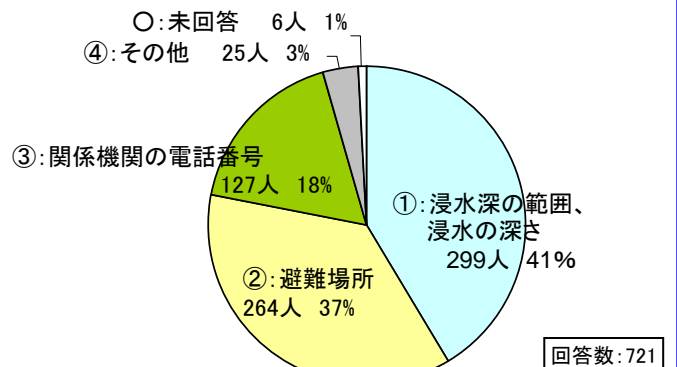


横手市

【問5】あなたは、「横手市ハザードマップ」を見て、洪水時に避難する場所がわかりましたか。



【問10】「横手市ハザードマップ」の中で、特に参考となったものは何ですか。(複数回答)

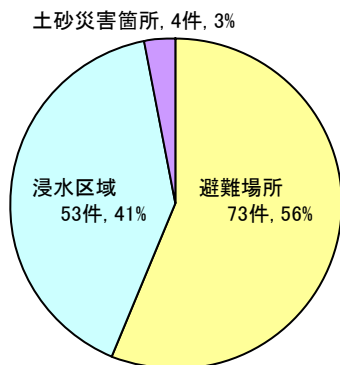


【参考 ハザードマップで役立つ情報（浸水想定区域内外別）】

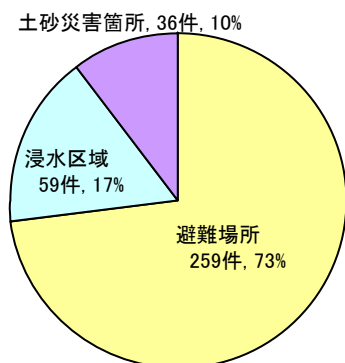
湯沢市

(参考) 浸水想定区域内外別に立つ情報は何か。

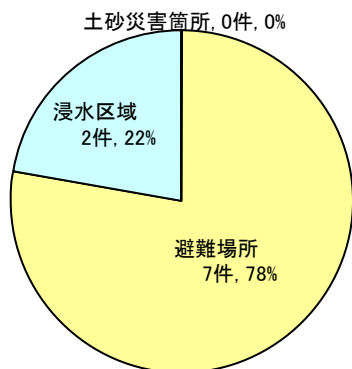
浸水想定区域内



浸水想定区域外



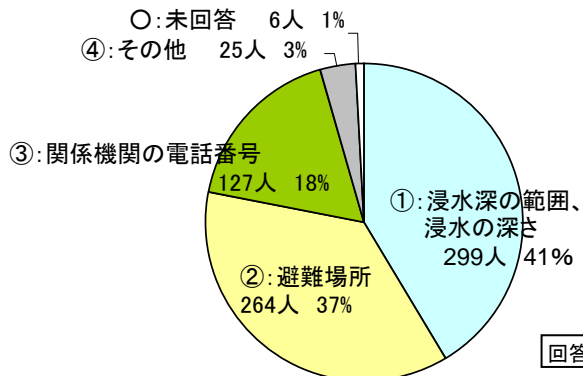
(分類不能)



横手市

再掲載

【問10】「横手市ハザードマップ」の中で、特に参考となったものは何か。(複数回答)



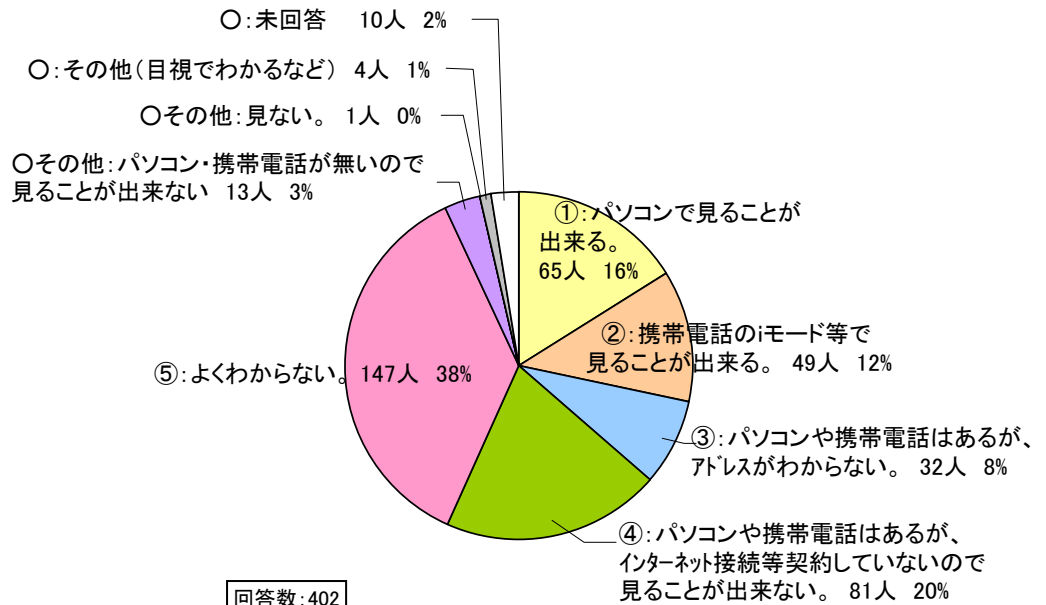
【ハザードマップの記載情報について (3)】

雨量・水位情報はインターネット[携帯電話のiモード等含む]にて情報提供しているが見ることが出来るかの設問に対しては、パソコンや携帯電話で入手出来る人は約30%程度であり、「接続契約していない」との回答は約20%の回答である。またよく分からないとの回答は約40%程度である。

湯沢市

横手市

【問11】大雨や川の水位の情報についてはインターネット(パソコンや携帯電話[iモード等])で公開していますが、あなたは見ることができますか。(複数回答)



【避難行動等について（1）】

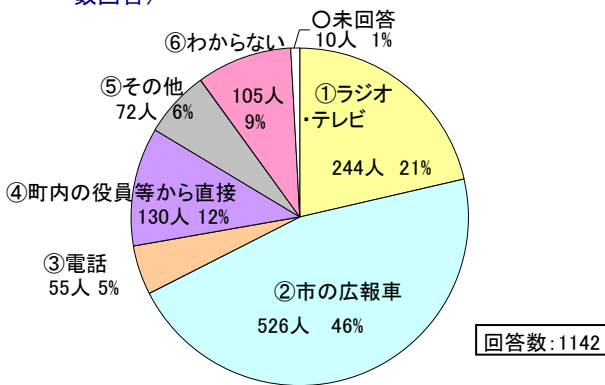
これまでに実際に避難勧告等の指示を受けたことがあるとした人は湯沢市・横手市いずれも約5%であり、ほとんど受けたことがないとしている。

また実際に避難をした経験についても湯沢市で約8%、横手市で約15%程度でありほとんどが避難したことがない。

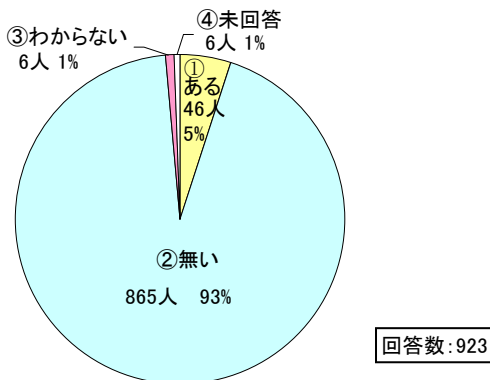
避難勧告等の避難に関する情報がどのような伝達方法で伝えられると思っているかとの設問に対しては、湯沢市・横手市いずれも約半数の人が「市の広報車」と回答しており、次いで「ラジオ・テレビ」が約20%程度と回答している。わからないとした人では、「伝達方法を広報で教えて欲しい(湯沢・横手)」「市の広報車や防災無線が聞き取れない(横手)」といった意見の記載もあった。

湯沢市

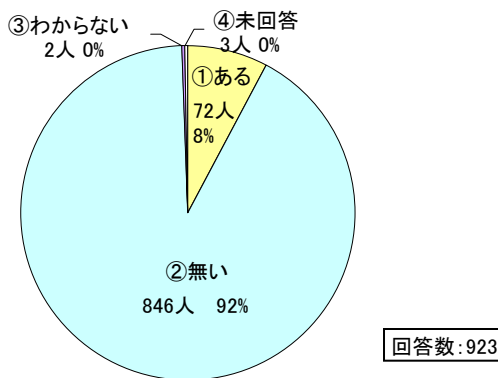
【問10】洪水・土砂災害時は、どのような方法であなたに避難情報等が伝達されると思っていますか。(複数回答)



【問8】あなたは、これまでに避難勧告・避難指示等を受けたことがありますか。

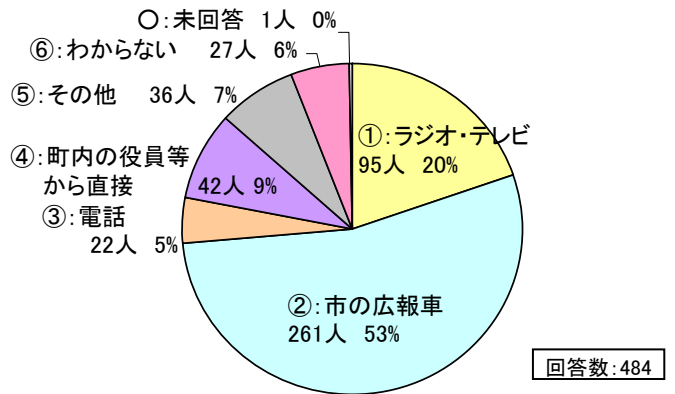


【問9】あなたは、これまでに洪水・土砂災害・地震等により実際に避難したことがありますか。

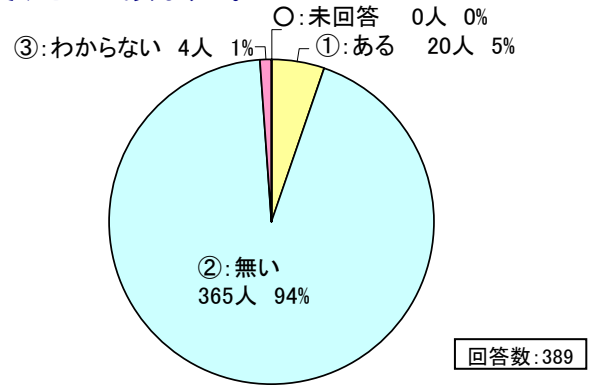


横手市

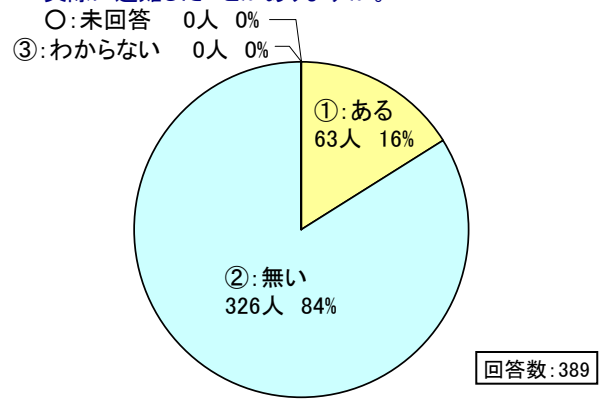
【問6】あなたは、洪水の際にどのような方法・手段であなたに避難情報が伝達されると思っていますか。(複数回答)



【問7】あなたは、これまでに避難勧告・避難指示等を受けたことがありますか。



【問8】あなたは、これまでに洪水や地震等があり、実際に避難したことがありますか。



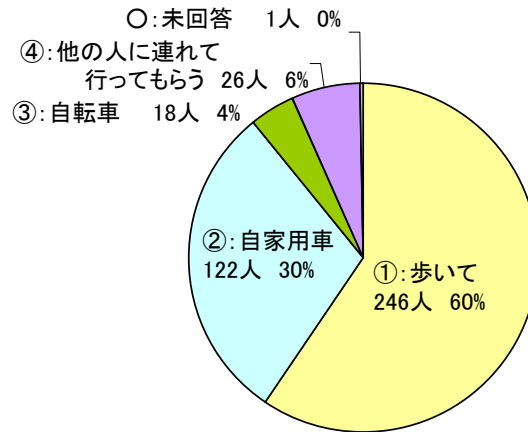
【避難行動等について（2）】

実際に避難する場合の手段については、「歩いて」の回答が約60%であり、次いで「自家用車」が約30%での加藤である。但し、「避難経路を考えると通れない」や「高齢者であるので自力では避難出来ない」といった意見の記載もあった。

湯沢市

横手市

【問9】あなたは、洪水や地震等により、実際に避難する場合は、どのようにして避難しますか。（複数回答）



回答数:413

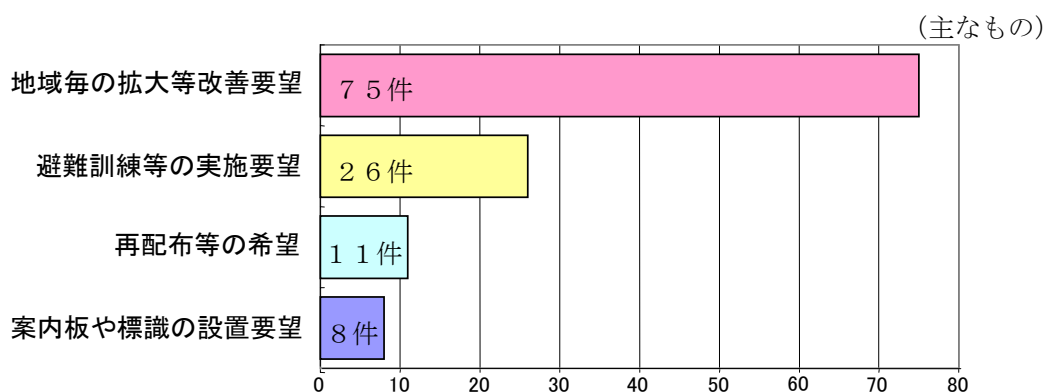
【自由意見について】

自由意見の欄に何らかの記入を頂いたのが、湯沢市で410通、横手市で176通あり、その中で主なもので湯沢市、横手市いずれでも記載があったのは、「ハザードマップが大きすぎる」「地域版がほしい」等扱いやすさの向上に関する意見が多くあった。このほか「文字が読み取れない」「避難経路がわからない・案内板等設置して欲しい」「避難場所が遠すぎる」「高齢者等に配慮が必要」「避難訓練を実施してほしい」「町内会単位等で説明会を実施してほしい」等があった。

また湯沢市では「このアンケートを機会にあらためて見直した」「無くしたので再配布を希望する」といった意見があり、横手市では「ハザードマップはありがたい」「ハザードマップを見て今後勉強する・話し合う」といった意見の記載もあった。

湯沢市

【問14】「湯沢市災害ハザードマップ」や災害対応等について感じる事があればご自由に記入ください。



横手市

【問15】「横手市洪水ハザードマップ」や災害対応等について感じる事があればご自由に記入ください。

